

「鹿児島県環境白書」刊行にあたって

本県は、南北600キロメートルに及ぶ広大な県土を有し、日本で初めて国立公園に指定された霧島、世界自然遺産に登録された屋久島、世界的にも貴重な動植物を有する奄美群島、毎年1万羽以上渡来する出水平野の特別天然記念物「ツル」など、他の地域にない優れた自然環境に恵まれています。このかけがえのない恵み豊かな自然環境を大切に保全し、活用しながら、次の世代に確実に継承することは、現代に生きる私たちの使命であると考えています。

「環境」は、21世紀における人類の共通課題であり、今後様々な行政展開が集中的に求められると考えております。このため、県では、平成21年4月から「環境部」を新たに設置し、かごしま将来ビジョンやマニフェストに掲げた「環境先進県として、地球を守る低炭素社会の実現への貢献」、「地球にやさしい循環型社会の形成」、「自然あふれる癒しのかごしまづくり」に向けて、より一層の取組を推進しているところであります。

特に、地球温暖化は、その予想される影響の大きさや深刻さから見て、人類の生存基盤に関わる最も重要な環境問題であることから、地球温暖化対策推進条例を制定し、県民、事業者、行政が一体となって温室効果ガスの排出を削減するなど、地球を守る低炭素社会の実現に向けて、積極的な取組を進めることとしております。

また、廃棄物の排出抑制や減量化、リサイクルの推進を図るとともに、公共関与による産業廃棄物管理型最終処分場の整備を推進するなど、循環型社会の形成を図ることとしております。

さらに、緑豊かな森林や美しい海岸線、希少な野生生物など、本県の豊かな自然や環境を守るため、奄美群島の世界自然遺産登録へ向けた取組や、大気、水環境等の保全対策を推進するなど、自然あふれる癒しのかごしまづくりを進めることとしております。

このような取組を通じて、地球温暖化を防止し、地球環境を守るとともに、ふるさと鹿児島のかげがえのない環境を守り育て、次世代に引き継いでまいりたいと考えております。

この白書は、平成20年度における鹿児島の環境の現状と施策の内容・成果を取りまとめたものであり、この白書が、県民の皆様の環境に対する認識や意識を高め、環境保全に向けた取組の参考になれば幸いです。

平成22年 2 月

鹿児島県知事 伊藤 祐一郎